

近世22.7-05-098



芥一 都二條の新山殿の院使いんし兼かね總そう務む
 芥二 本能寺の連袂れんけつ臺たいの秀ひで白しろ扇せん面めん
 芥三 難なん獨ど多たの廢つち堂どう宇うの俊しゅん傑けつ富ふ純じゅん
 芥四 厄やく々ぐ崎さきの凡おほ月つ庵あんの英えい雄ゆう竹たけ鏝えん
 芥五 兼かね冬ふゆ公こうの別べつ水みづ殿てんの金かね堅けん郭かく崎さき
 芥六 隅すみ田でん川がわの眾しゅ候こう殿てんの祐すけ經けい主しゅ藩はん
 芥七 龍りゅう德とく寺じの法ほう指し舎しゃの婿よめ孔こう燒やう香かう
 芥八 全ぜん枝し儀ぎの酒しゅ夢む席せきの夷えい公こう鑑かん切きり

東京大学文学部・人文社会系研究科
University of Tokyo Faculty of Letters / Graduate School of Humanities and Sociology

